

3 各課報告

3.1 図書館庶務課

夏期の一斉休暇を利用して行ったサーバのリブレースは、事前準備、事後処理、ソフトの入れ替え、運用テストも含めれば一年がかりの業務であった。また、前々から会計監査や内部監査で指摘のあった図書の資産評価の把握については、2006年度に予算措置がされたことにより、図書原簿のデータベース化が実現できる見込みが立った。

1 資料のデジタル化

2003年度から継続している、蘆田文庫古地図のデジタル化（350カット、約200点分）を行った。

2 外部データベースVPN、PPP接続の停止

「MAGAZINEPLUS」「Web OYA-bunko」「聞蔵DNA for Libraries」「LEX/DBインターネット」について、学内での利用に限定されることが判明し、4月28日付けでホームページに公示し、学外からの接続を停止した。

3 中学生の職場体験学習の受入れ

6月に、整理課、総合サービス課の協力を得て、流山市立東部中学校第2学年生徒3名を受け入れた。大学としても初めてのことであった。

4 旧法学部資料センター所蔵資料の移管手続き

11月24日に法学部事務室と財務部が会計監査人と協議し、旧法学部資料センター所蔵資料の扱いについて、図書館移管資料も含め資産処理の学内手続きを行なうことを決定した。この手続きが終了することにより、移管処理が完了する。

5 内部監査

12月2日(研究所事務室と合同)および13日(図書館単独)に、監査室による内部監査を受け、以下の指摘を受けた。

- 1) 図書管理規程に基づく研究所等他部署所蔵図書の管理について
- 2) 外国雑誌のSWETSに対する支払時期、納品期間および資産登録のズレの問題について
- 3) 高額資料の購入手順と活用の実態について
- 4) 図書館図書資産総額の把握について

6 図書館活用法授業資料のデジタルコンテンツ化

教育改革支援本部からの指導により、2006年度に授業資料のデジタルコンテンツ化を

進めることになり、教務事務部、請負業者との検討を開始した。

3.2 整理課

目録・装備業務の外部委託化から 3 年を経過し、委託方法等の見直しを行った結果、和書業務は前年度とは別業者に決定した。ところが、大幅な業務遅延が発生し、軌道に乗るまでに 2 ヶ月を要した。

1 受入冊数

2005 年度の受入冊数は、和書は 36,824 冊、洋書は 11,181 冊であった。前年度にくらべ、和書は約 7,000 増、洋書は約 2,400 冊減となった。洋書の受入はここ数年減少している。そのため、洋書目録の業務委託の中に、かねて懸案であった大型の寄贈書や旧大学院図書の遡及処理を組み込んで対応した。

2 和田清旧蔵漢籍（和田本）の整理

東洋史学者和田清氏の旧蔵書で、法制史関係を中心とする漢籍 9,961 冊からなる。特別資料費で購入したもので、2004 年度内処理を目標に進めてきたが、四部分類で整理して請求記号に反映させるなどの専門的処理方法をとったことや、人員不足もあり、2005 年度にずれ込んだ。このため、漢籍担当者だけでなく和書係全員と受入係の協力を得て 2005 年 7 月に完了させた。

3 博物館資料の遡及

2004 年 10 月から博物館新刊書の登録が開始されたが、2005 年度より遡及分の登録が開始され 6,069 冊が目録化された。

4 データ整備の見直し

データ整備は 2003 年から開始して 2 年間経過したが、5 年間という年月が限定されており、実績から算定して期間内に終わることが危ぶまれた。予定の 2008 年 3 月に和泉、生田を含めデータ整備が終了するように、訂正の必要性があるデータの見直しをはかり、加えて図書の現物を見ての修正から、原カードによる修正へと変更した。見直し後の実績は着実に成果を上げている。

5 大型寄贈本

2004 年度に阪東宏元文学部教授から、ポーランド語を主とする図書約 3,000 冊の寄贈があった。そのうち約 2,000 冊については 2005 年度中に登録を終了し、残りの約 1,000 冊は 2006 年度に登録の予定である。また、2005 年度に岡正雄先生旧蔵の洋書約 2,500 冊の寄贈があった。重複調査の結果、約 900 冊を 2006 年度に登録する予定である。

6 トルコ文庫目録

文学部永田雄三教授からのトルコ語図書の寄贈書は「トルコ文庫」として整理されているが、念願であった冊子目録が3月に刊行された。

7 私立大学図書館協会海外集合研修

私立大学図書館協会海外集合研修で、2003年度の伊藤朋子に続いて和書係の仲山加奈子が、10月23日から10月30日の期間に、アメリカのイリノイ州立大学をはじめとして、先駆的活動をしている図書館・機関等を見学、研修した。

3.3 総合サービス課

中央図書館が開館して5年が過ぎた。2005年度は334日開館し、開館日数は新図書館開館以降最長となった。

1 個人情報保護法への対応について

2005年4月1日から「個人情報保護に関する法律」が全面的に施行されることに伴い、「明治大学図書館における個人情報の取扱いについて」の文書を作成し、各カウンターに備え付けて法律の主旨を徹底することに努めた。

2 「明治大学図書館所蔵蘆田文庫古地図」電子展示

国立情報学研究所主催のオープンハウスで6月2、3日に「明治大学図書館所蔵蘆田文庫古地図」電子展示を開催した。パソコンを用いて古地図の高精細画像データのデモンストラーションと説明を行った。

3 貴重書庫改修計画案の策定

資料保存環境の抜本的改善のために改修計画を策定するWGを立ち上げ、現貴重書庫と隣接する現図書館システム室（マシンルーム）をあわせて貴重書庫とする改修計画案を策定した。2006年度予算には政策経費として改修のための調査費が計上された。

4 ギャラリー展示

中央図書館ギャラリーの展示は、第9回「新収貴重書展」（3月26日～6月5日）、第10回「図書の文化史」（7月6日～10月3日）、第11回「岡本喜八展」（10月16日～11月29日）、第12回「資料の保存と修復 明治大学図書館の取り組み」（1月27日～3月27日）を開催した。

また、博物館特別展示室Ⅱを会場として「明治大学図書館所蔵エジプト学関係貴重書展」（2006年2月1日～3月27日）を開催し、中央図書館が所蔵するエジプト学関係の貴重書のなかでも白眉と言える、ナポレオンのエジプト遠征の報告書『Description de l'Egypte（エジプト誌）』初版（1809-1822）とドイツにおけるエジプト学創始者 Karl

Richard Lepsius (1813-1884) 著の『Denkmäler aus Ägypten und Äthiopien (エジプト・エチオピア記念碑)』(1849-1859) 刊行の一部を展示して好評を博した。

5 多目的ホールの利用

通常は閲覧室として利用されている多目的ホールは、①アフリカ文庫講演会「グローバル化の進展とサハラ以前のアフリカ諸国の挑戦」(6月9日)、②明治大学図書館・ABAJ 共催の「貴重書等の盗難、紛失に対する website 国際ネットワークシステムの説明会」(11月7日)、③データベース講習会(12月6、13、16日)が開催された。その他に④TOEIC IP(団体特別テスト)の実施、入学試験関連の業務などにも利用された。

3.4 和泉図書課

和泉図書館は、資料の充実を図り、落ち着いて勉学できる環境づくりに心がけている。2002年から新和泉図書館の建設に向け関係機関と協議を進め、2005年度には和泉委員会と図書館による新和泉建設連絡協議会を設置し、ようやく学内諸機関の俎上にあがり検討がなされているところである。この間、残念ながら、現図書館の施設面での大規模な改修は抑制されてきた。新図書館建設に期待するものである。

1 実務・軽読書コーナーの新設

長期保存を必要としない実務書、軽読書について消耗品費で購入することとし、新館1階の文庫・新書コーナーに隣接する場所に実務・軽読書コーナーを設けた。

2 OPAC 端末の館内各所への分散配置

ネットワークの増設と端末の設置場所・台数の見直しを行い、未設置であった新館書庫B1にOPAC検索端末を設置した。これにより図書が配架されている全てのフロアに端末を設置することができた。

3 利用者教育の充実

カリキュラムの改革により、1・2年次のゼミ・演習が増加し、これに伴い図書館で開催しているゼミツアー(おもに、4・5・10月)の参加者も激増した。前年の61回、1,131名に比し、本年は114回、2,084名の参加があった。図書館内の案内と参考室でのコンピュータ、プロジェクター、画像提示装置を用いた説明を行った。

利用者教育は、これからの和泉図書館が取り組むものとして重要である。

4 著者と語る

6月24日、第7回図書館講演会「著者と語る」を和泉図書館第2開架閲覧室において開催した。今回は、TBSテレビドラマ『3年B組金八先生』の著者である著名なシナリオライター小山内美江子氏を招き「金八先生と国際交流活動」と題して講演会を行った。

た。学内・学外から 313 名の参加があり盛会であった。

5 日本近代文学文庫の展示

2004 年度に購入した、同文庫の図書のうち、特に貴重なものについて中央図書館ギャラリーと、和泉図書館において展示した。また、和泉キャンパスで開催された「明治大学杉並区内大学講座 日本近代文学の中の《江戸》」（10 月 8 日～10 月 29 日の毎土曜日）に合わせて、日本近代日本文学文庫の中から、石川啄木、芥川龍之介、太宰治、森鷗外の著作を館内に展示した。

6 杉並区図書館ネットワーク

2004 年 7 月 26 日に杉並区立図書館、明治大学、女子美術大学、高千穂大学、東京立正短期大学、立教女学院短期大学の参加により杉並区図書館ネットワークが発足し杉並区民への開放（閲覧・貸出）、大学図書館間の開放（閲覧・貸出）を実施している。2005 年度、当図書館の杉並区民登録者は 49 名、貸出数 632 冊。ネットワークの企画事業として「対談 絵本の世界を語る」（絵本作家・なかやみわ、立教女学院短大教授高橋洋代）を杉並区中央図書館で 5 月 19 日に開催、盛会であった。

3. 5 生田図書課

ここ数年来掲げている「利用し易い図書館」の構築を継続するとともに、書庫内整備、目録情報の整備等、利用者に直接目に触れない部分での改善にも努めた。

1 自動貸出機の設置

2004 年度末に 1 台、2005 年度末に 1 台自動貸出機が設置された。これにより、これまでは係員の手を介していた貸し出し手続きが、利用者本人が手続きできるようになり、プライバシーの保護が保たれるようになった。

2 資料室備付図書の図書館への返還

農学部的一般教育資料室に貸し出されていた図書館資料が図書館に返却され、B2 書庫に配架された。これは、資料室が手狭になったことに大きな理由があると思われる。これによって、利用者の求めによってその都度資料室に返却依頼をしていたことが不要となると共に、利用者はいつでも書庫内でそれらの資料を見ることができるようになった。

3 研究室資料の蔵書点検

長い間懸案となっていた生田地区研究室配架資料の蔵書点検を、7 月から農学部を皮切りに開始し、3 月までに在外研究者を除いた全ての研究室・資料室の点検を終えた。これは大学の財産管理を徹底する指導によるもので、生田地区では約 20 年ぶりとなる。

調査結果は、点検冊数 49,446 冊 不明本 3,926 冊 不明率 7.9% となった。

調査にあたっては、事前に研究室単位の図書リストを配布し、各教員に資料をまとめておいて貰うなどの協力をお願いした。しかし、長年放置したままだったこともあり、図書館の背ラベルが剥がれている資料も多く、完全にチェックできたとは言えない部分もある。今後定期的に調査する必要がある。また、生田地区のみ行ってきた研究用図書の研究室配架を、今後どうするのか図書館と研究者との間で協議する必要がある。

4 書庫内整備、目録情報の整備

2004 年度から書庫内図書の蔵書点検の際、リストにより書誌の点検もあわせて行っているが、2005 年度は研究室資料の蔵書点検業務が入ったため十分に進まなかった。そのような中、毎日の業務にこの業務を取り入れ、8 月からは保存書庫の旧大学院所蔵図書の整備を開始した。

5 ウォーター・クーラーの更新

館内に設置されている 3 台のウォーター・クーラーが、耐用年数が過ぎていることからしばしば故障したため更新を要求していたが、父母会からの寄贈により 3 台とも更新することができた。館内での飲食禁止を利用者に求めている状況の中で、この寄贈は現状改善に大いに役立っている。

6 コピールームの新設

かねてより利用者からコピー機の騒音に対する苦情が寄せられていた。このため、倉庫となっていたスペースを改装してコピー機を移設し、コピールームとした。また、空いたスペースには「あげます本コーナー」を拡張して利用者に提供している。

7 情報処理用パソコンの設置

2005 年度末、それまで中央校舎 5 階 WEB 自習室(0505)に設置されていた情報処理用パソコンを図書館入り口そばに 4 台設置した。このことにより、学生は情報処理教室に移動しなくても、また、休日開館日にも利用できるようになった。